

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

日時：令和7年5月9日（金）

10:35～11:40

場所：会議室

○出席者（7名中5名出席）

A委員（地域・公民館代表） B委員（福祉施設代表） C委員（学習活動施設代表）

D委員（教育関係者代表） E委員（就労支援施設代表）

○学校見学 10:00～10:30

○会議 10:35～11:40

1 開会

2 委員および教職員紹介（自己紹介）

3 校長挨拶

新年度が始まり、ちょうど一か月が経過した。本校の児童生徒数もやや増加し、賑やかにスタートを切ることができた。最初は順調に見えたが、児童生徒も頑張りすぎた反動で体調を崩すなど、さまざまな状況が見られている。それでも、日々の学習や授業を通して成長する姿が確認できている。先ほど、小学部の子どもたちは全員元気に遠足へ出発したところである。

本校の学校運営協議会は、私が着任した年にスタートし、今年度で3年目を迎える。この会議では、本校が目指す目標や直面している課題を委員の皆様と共有し、その実現や課題解決の方法を協議する場としている。そして、地域の協力を得ながら目標に向けて実践し、年度末にはその評価を行う流れとなっている。

昨年度も2回の開催を通じて、委員の皆様から多くのご意見を頂戴した。今年度は3年目に入り、新たに加わった委員の方々もいるため、忌憚のないご意見、ご指導、ご質問をいただきながら、内容の充実を図っていきたいと考えている。本

4 会長・副会長選出

- ・会長にはA委員、副会長にはB委員を事務局より提案し、承認された。
- ・以降の議事は、承認されたA委員が進行を務めた。

5 学校経営計画について

- ・資料のとおり説明がされた。

6 教職員働き方改革アクションプランについて

- ・5および6については校長より提案があり、質問はなかった。

7 本校の教育活動について

- (1) 在籍児童生徒の概要：副校長より説明された。
- (2) 小学部
- (3) 中学部
- (4) 高等部

※各学部主事より説明された。

8 意見・提言

【A委員】

この地域には小・中学校、保育園、老人施設、支援学校、児童養護施設が密集している。将来の子どもたちのために、遠慮なく意見を言い合える関係を築けるとよい。ご苦労も重々承知しており、働き方改革を大切にしつつ、自身の健康も大切にしながら子どもたちのために尽力していただきたい。できることがあれば、ぜひ声をかけてほしい。皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

【B委員】

私も3年目となるが、学校集団になじめず困っている子どもたちを受け入れてくださっていることに感謝している。この地域や学級の中には、まだまだ困難を抱える生徒が多くいると感じており、青松支援学校には非常に期待している。登校経験がなかったり、学習の空白があったりすることで支援が難しい場合もあると聞いており、先生方の日々の努力と工夫に敬意を表したい。やむを得ず早退している生徒もいるのだろうと理解しつつ、その子のために何ができるかを常に考えている姿勢に感銘を受けた。

校長から説明のあった働き方改革アクションプランにおける職場のメンタルヘルスへの取り組みも重要であり、素晴らしいと感じた。具体的な目標や取り組み内容も参考にしたい。今後も連携を深めていきたい。

【C委員】

授業を案内していただき、環境がよく整備されていると感じた。授業も映像などを活用し、丁寧に行われている印象を受けた。体験が不足しているという話があったが、教育委員会での話を通じて、コロナ禍の影響が大きいことが分かっている。当時、学習年齢にあった子どもたちは、コロナにより学習活動が一時的に止まり、本来行われるべき体験ができないまま学年が進んだケースもある。

先ほど、6年生が遠足に出かけたという話があったが、高学年でも遠足を実施することは子どもたちにとって有意義であると感じた。体験活動の重要性については、今後さらに広げていけるとよい。

また、博学連携については、昨年度も計画され、前館長からも好評だったと引き継いでいる。先日、県立学校長会議でもその取り組みを紹介した。文部科学省や文化庁も博学連携を推奨しているが、博物館が近くにある学校は少なく、連携が難しい中で、青松支援学校は非常に恵まれた環境にある。今年も実施予定とのことだが、さらにブラッシュアップを重ね、他校にも広げられるような取り組みにしていけるとよい。

生徒が実物を見ながら授業を受けることは理解を深め、興味関心を高める効果がある。担当教員にとっても授業の質を高める機会になると考える。今年は機織り体験があるとのことだが、歴史や理科など、さまざまな教科と関連づけることができる。少しでも子どもたちの興味が広がるよう、今後も協力していきたい。引き続きよろしくお願いする。

【D委員】

授業や施設の様子を見学し、非常に整っていると感じた。子どもたちが教師とコミュニケーションを取りながら授業を受けている様子を見て、素晴らしい指導が行われていると感心した。私は中学校の教諭であるため、後ほど情報をいただければありがたい。

小・中・高と一貫して学んでいる中で、系統的に体験活動を取り入れているという話があった。高等部では就職に向けた活動を行っているとのことだが、就労についてはどの段階から子どもたちに意識させているのか、小・中・高それぞれの段階での取り組みについて情報をいただきたい。

また、校長から説明のあった運営計画では、目標数値が80%以上のものが多く、達成されているのではないかと感じた。保護者とのつながりも重要な中で、難しい案件が発生した場合にどのように対応しているのかを伺いたい。

〈回答：総括教務主任〉

本校への入学や転校の際には、学校見学などを通じて説明を行っている。その際、病状が安定したり、所属校に戻れるような状況になった場合には、所属校に戻る可能性があることを伝えている。ここでいう「安定」とは、児童生徒本人だけでなく、家族の状況なども含めた総合的な安定を指す。関係機関との支援会議を重ねながら、子どもと家庭の状況をその都度確認し、判断している。安定しない場合には、子どもに応じて個別に対応している。

【D委員】

就労に向けた取り組みは中学校から始まるのか。就職に関する学習は、通常の学校と同じような形で行っているのか。

〈回答：総括教務主任〉

知的障害のある子どもたちには作業学習があり、それ以外の子どもたちにも同様の活動を取り入れている。

【D委員】

給食についてだが、現在盛岡市では「ランチ BOX」というスタイルで、希望者に給食が届けられる取り組みがある。以前勤務していた中学校では、給食センターから給食が届けられ、全員が同じものを食べていた。家庭の状況によっては、給食は非常にありがたいものであり、経済的に厳しい家庭にとっては、安価で栄養価の高い食事を提供できる給食は重要であると考ええる。

〈校長〉

本校の児童生徒の半数以上は、みどり学園やことりさわ学園の生徒であるため、日常的に保護者と接する機会は多くない。自宅から通学している子どもたちは、保護者が送迎しているか、自力で通学している。職員が丁寧に対応してくれていると考えている。

一方で、PTA総会や授業参観などの機会に保護者が来校することが少ない点は課題である。保護者から意見を聞こうとしても、なかなか声が上がらないことが悩みである。先日のPTA総会では、授業参観の合間に総会を組み込むなど時間割を工夫した結果、多くの保護者が来校し、会場が満席になるほどであった。私自身も初めてお会いする保護者が多く、非常に良い機会となった。

その場で話題に上がったのが給食についてであった。通学生は全員が弁当を持参しており、高等部の学園生も弁当を持参している。小・中学部の学園生は学園に戻って食事をしているため、現状では困っていない。しかし、他の特別支援学校ではすでに給食が導入されており、本校でも給食があればありがたいという声が保護者から上がった。今年度は、県への要望の中で給食の導入についても取り

上げていきたいと考えている。子どもたちが同じ給食を食べることは、食育の観点からも重要であり、今後の取り組みとして進めていきたい。

【E 委員】

支援学校には実習で訪問しており、どの学校でも一人ひとりに丁寧に対応している様子が見受けられる。生徒に対して、将来何が役立つのかを常に考えて指導している姿勢を、間接的にではあるが感じていた。今回、実際に支援学校の内部を知ることができたのは非常にありがたい。

弊社を利用している方の約 95%が一般就労しており、その多くは大学や高校を卒業後に一度就職した方々である。最近では高校からも利用者が増えている。特別支援学校を卒業した方も 2 名在籍しており、非常によく働いてくれている。支援学校が初めから「働くこと」を意識して指導していることが、社会に出た際に役立っているのだと実感している。

今回の運営協議会に参加し、多くの学びを得ることができた。感謝している。

9 承認

- ・令和 7 年度の学校経営計画については、全会一致で承認された。

10 閉会